



理学部同窓会だより



発行：2015年5月1日
発行者：学習院大学
理学部同窓会

特集

生命科学科について

生命科学科 主任 岡本治正

親から子へ伝えられる遺伝情報
を担う物質がDNAであると
同定され、その立体構造が解明
されたのは二十世紀の半ばでし
た。その後DNAの構造中には
生命活動を司る情報が全て暗号
化されていることが明らかにさ
れ、生命活動のしくみを物理・
化学の言葉で語ることに、すな
わち分子のレベルで理解するこ
とが可能となり、この学問領域は
分子生物学と称されるようにな
りました。



91年
に生命
分子科
学研究
所が設
置され
分子生
物学を
基盤と
してD
NA、
RNA

タンパク質など生命活動を支え
る生命分子の基礎研究が開始さ
れました。急速な生命科学の発
展に鑑み2008年4月には小
谷正博、芳賀達也両先生をばじ
め多くの理学部教員の尽力によ
り、大学院自然科学研究科に生
命科学専攻が増設され、次いで
2009年4月理学部に生命科
学科が創設されて、総勢16名の
教官(8教授、8助教)による
布陣で生命の謎に迫る研究・教
育を行う体制が整いました。

現教授陣の「専門分野」研究
テーマ使用している生物名」
について以下列挙します。安達
「発生遺伝学—遺伝学を用いた
発生と生体機能維持のしくみの
研究—シヨウジョウバエ」。岡
田「構造生物学—情報伝達を担
う膜タンパク質の構造・機能解
析」。岡本「発生神経生物学—脳
の発生メカニズムの研究—カエ
ル」。清末「植物生理学—植物の
成長・分化の研究—シロイヌナ
ズナ」。小島「タンパク質化学—
遺伝子工学を用いた高機能タン

パク質の創製」。花岡「分子生物
学—DNA複製と修復機構の解
明・がんと老化の克服を目指す
—マウス、酵母」。菱田「分子遺
伝学—DNA相同組換えの分子
メカニズムの解明—酵母、大腸
菌」。馬淵「分子細胞生物学—細
胞の分裂のしくみの解明—カエ
ル、ウニ、酵母」。

教育内容としては、分子生物
学、細胞生物学、生化学、動物
学、植物学、生命科学研究法な
どの講義、原著論文を英語で読
む演習、研究室総出で行う生命
科学実験や野外生命科学などの
充実した授業に取り組んでいま
す。

新設学科を学外にアピールす
るため、また本学の生命科学科・
専攻が関東地方における生命科
学の拠点の一つであることを認
知してもらうため、全国から最
先端の研究者を講師として招き、
年に2回の学習院大学生命科学
シンポジウムを開催し、すでに
16回を数えました。

末尾になりますが、新設とい
うことで理学部OBの方々には、
生命科学科卒業生の就職につい
て何かとご心配いただいてまい
りました。幸いなことにこれ
まで3期にわたる卒業生の就職
状況は概ね順調であること、ま
た大学院に進学してさらに生命
科学を極めようとする学生も出
てきていることをご報告させて
いただきます。

工作工場から

工場長 下川祐司



下川工場長

平成26年10月17日の早朝に、
前工場長の濱野正良さんが他界
された(享年91歳)。12月20日
に工作工場にて、濱野夫人と二
人の娘さんにもお越し頂き、20
名程の集まりで偲ぶ会を行った。
濱野さんが昭和29年から平成元
年に定年退職するまでの35年に
わたり整備し完成させた工作工
場は、次世代に引き継がれ創設
から60周年に当たる平成22年1
月に理学部南7号館の東側1階
に引っ越しをした。平成19年に
小谷正博先生から新棟に工場を
移設する相談を頂き、早速工場
内部の設計図に取り掛かる。ほ
ぼ正方形の空間を、手仕上げ場、
溶接場、材料倉庫、講義場、等
8室に区切り学生に対して目が
届き、安全第一に配慮した空間
を目的に仕切る壁はガラス張り
にした。重い工作機械の搬入や
設置を考え、私なりに設計した
つもりである。

平成21年12月に新棟はほぼ完
成したが、工作機械のレベル出
し作業に困難を極めた。さらに
設計図と異なる箇所は、色々と

使い勝手の良い方法を考え、改
善改良を繰り返しながら、無事
に初年度を終えた。丸一年が過
ぎ春休みに行っている化学科と
物理学科2年生の機械工作実習
(ミニラボラトリージャッキ製
作)の最終日、3月11日午後2
時46分頃に経験した事のない巨
大な揺れに襲われた。学生の身
に危険を感じ避難した。工場内
は工作機械を含め被害がなく、
若干壁に亀裂が走る程度であっ
た。あの揺れに耐える建物の構
造であったと安堵した。工作工
場の上階には新設された生命科
学科があり樹脂製作物の依頼も
多くなった。金属加工以外にも
研究室での実験のニーズに応じ
て柔軟に対応している。現在工
場のスタッフは、栗原雅哉君
(勤続10年)と私(勤続33年)
である。理学部へお越しの際は、
是非工場にもお立ち寄り頂きご
覧頂ければと願う。

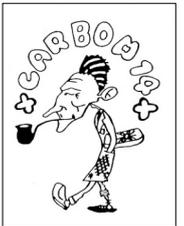




寄稿

木越先生を偲んで

木越研究室卒業生有志一同



我々の恩師、木越邦彦先生は、昨年7月6日に94歳で大往生を遂げられました。

その研究に貢献されました。

在職中には300人近い学生の卒業研究等の指導をされました。

学生に与えた研究テーマは多岐にわたり、先生は広い分野に興味を持たれていました。

週1回のゼミでのNature誌、Science誌を中心とした論文紹介は、その論文の持つ意義をしっかりと説明するように厳しく指導されました。

卒業研究、ゼミで、サイエンスとはどういうものであるかを厳しく叩き込まれました。

我々のほとんどが一度は立ち往生したことは、懐かしい思い出です。

この厳しさは、入院中の担当医の説明の仕方にも及び、担当の看護師さんが大喜びしたとか。

先生は大の車好きで、スバル360(木の間に運び、先生を困らせたワル有)に始まり、高速道路に出てきた兎を避けて車を大破させても乗り続けられ、90歳近くまで運転をされていました。

ところで、先生の机の上は書類の山で、すき間が無い状態でした。

山の何処にどのような情報があるかを記憶されていて、他人に山を整理させませんでした。

年末の大掃除でこの山が片付かないので、忘年会がなかなかスタート出来なかったこと

ともありました。コンパでは魔法使いの衣装を着られたり、学生と一緒に楽しめました。お手製のお菓子を頂いたことも度々ありました。

昨年9月27日に「木越先生を偲ぶ会」が開催され、ご親族、卒業生をはじめ学会関係者等210名を超える方々が参加され

て、前半は学内で記念講演、後半はホテル椿山荘東京で「偲ぶ会」が盛大に行われました。

ご遺影の脇には秋の野の花が供えられ、北軽井沢の別荘にお邪魔したことを思い出しました。

先生の甥、木越洋氏(元NHK交響楽団首席チェロ奏者)による

バッハ曲の荘厳な演奏で始まり、会の進行中はスクリーンに先生の幼少時から晩年までの写真がスライドショーとして映写され、思い出話で盛り上がりました。

七夕にお生まれになった先生は七夕の前日の6日に亡くなられました。

翌日の七夕の天に向かって昇って行かれたのだと思えます。

今後は天から我々を見守って頂ければと念じ、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

先生長い間有難うございました。

(文責・昭 40化 福岡 孝昭)



ドGakの信頼度は高く、国内外の地質学、考古学等の分野

定年後も福島県白河市の加速器分析研究所に移り、奥様の介護をされながら研究を続けられました。その成果は4年前にドイツの論文誌に掲載されました。先生は2万600件を超えるC14年代測定を3代に亘る年代測定室で行われました。測定コーナー

ドGakの信頼度は高く、国内外の地質学、考古学等の分野

先生長い間有難うございました。



理学部同窓会活動基金

支援のお願い

在校生支援活動にも力を入れていく所存です。これらの活動のために新たな活動資金が必要になっております。

つきまじ

現在、理学部同窓会は常任幹事会を中心として6つの委員会(運営・組織・会誌・技術交流・就職支援・広報)を設け、通常活動の他、機関誌「想」の年2回の発行、技術交流会の定期的開催(年5回)、理学部独自の就職支援の展開、卒業生の表彰の定着、オール学習院の集いに於ける会員相互交流の『場』である【理学部同窓会の部屋】の開催など幅広く活動しています。

55周年時に会員の皆様にご支援いただいた資金はこれらの活動のために有効に活用させていただきます。

ただいておりますが、残金もわずかになっております。

本年、理学部同窓会設立60周年を迎えるにあたり、これらの事業を拡大・強化していくだけではなく、ホームページ上及び理学部構内に会員がお互いに交流できる『場』を開設したいと考えております。

また、新たな

では、今後

の同窓会活動充実のため、また将来に多大な可能性を秘めた後輩のために、是非「同窓会活動基金」へのご支援を賜りたく存じます。

なお、前記基金は下記のいずれかの口座または同封の振込用紙にてお振り込みをお願い申し上げます。

お振り込みの際には必ず卒業年、学科、お名前をご明記ください。(会長・服部充雄)

【学習院大学理学部同窓会活動基金】

1口：3,000円

できるだけ複数口の寄付をお願いします。

振込先口座 学習院大学理学部同窓会

①三菱東京UFJ銀行 八王子中央支店 普通2383902

②ゆうちょ銀行 019店 当座0088343

編集後記

大変お世話になった左記の二名の先生がお亡くなりになりました。

浅枝 陽 先生 (平成26年8月27日没 享年89歳)

溝口 正 先生 (平成26年7月23日没 享年76歳)

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。